

今回は、3月4日に行われました神経障害性疼痛関連歯科学会合同シンポジウムについて日本歯科大学の石井隆資先生に、報告していただきます。

神経障害性疼痛関連歯科学会合同シンポジウム 2018 参加報告

日本歯科大学附属病院 総合診療科 口腔顔面痛センター 石井隆資

風は強いものの晴天に恵まれた2018年3月4日(日)、東京・信濃町の慶應義塾大学病院2号館11階中会議室にて「**歯科における術後性神経障害性疼痛の知識と対応**」というテーマで、日本口腔顔面痛学会、日本口腔外科学会、日本歯科麻酔学会、日本歯科薬物療法学会共催のシンポジウムが開催された。本シンポジウムでは各学会からエキスパートの講師が登場され講演が行われた。今回のテーマである術後性神経障害性疼痛は抜歯や抜髄でも起こる可能性があるため、私たち歯科医師は知っていなければならない病態である。

講演に先立ち当学会理事長の今村佳樹先生(日本大学歯学部口腔診断学講座)より、この4月から保険に収載される「精密触覚機能検査」について説明があった。本検査は、「口腔・顎・顔面領域の手術等に伴う神経障害や帯状疱疹や骨髄炎等に起因する神経障害によって生じる神経症状を呈する患者に対して、当該検査に関する研修を受講したものが、Semmes-Weinstein monofilament setを用いて知覚機能を定量的に測定した場合に1月に1回に限り算定する。」というもので、まさに本シンポジウムにとってタイムリーな話題であった。

次いで今村佳樹座長のもと、パート1が開始された。和嶋浩一先生(慶應義塾大学医学部 歯科口腔外科学教室非常勤講師)は「**歯科における術後性神経障害性疼痛の概要**」という演題で、痛みを伴う、すなわち麻酔をしなければ行えない観血処置は、全て神経を損傷して神経障害性疼痛を生じる可能性があるとの説明をされ、口腔外科の手術や難抜歯だけではなく、通常の抜歯、抜髄など日常臨床に潜む神経障害性疼痛の発生の可能性を講義された。照光真先生(北海道大学歯学部 歯科麻酔学分野)は「**神経損傷部位のMRIによる評価と対応**」という演題で、神経の可視化にはMRIは有用な手段であることを講義された。今後の神経MRIを応用した三叉神経の可視化に期待が高まる。

福田謙一先生(東京歯科大学口腔健康科学講座 障害者歯科・口腔顔面痛研究室)は「**神経損傷に対するペインクリニック的対応**」という題名で、口腔インプラント手術後や智歯抜歯後の神経損傷が社会的問題になり、医療紛争の原因となっていること、またその予後は損傷の程度に左右されることを解説された。



福田謙一先生



佐々木研一先生

佐々木研一先生(佐々木歯科・口腔顔面ケアクリニック、東京歯科大学口腔顎顔面外科学講座)は「**神経損傷に対する口腔外科的対応**」という題名で、抜歯やインプラント治療による下歯槽神経損傷や、近年増加している舌神経損傷の各病態の外科的対応について解説された。

午後のパート2では和嶋浩一座長のもと、まず今村佳樹先生が「**神経障害性疼痛の発生機序**」について講演された。歯科治療時の外科的侵襲による三叉神経の障害は、その程度により末梢神経だけでなく中枢神経にも影響を及ぼし、下行性疼痛抑制系の変調にもかかわるため、極めて難治性であることが述べられた。

佐伯万騎男先生（新潟大学歯学部歯科薬理学分野）は「**神経障害性疼痛におけるプレガバリンの鎮痛メカニズムと使用上の注意**」という演題で、世界中の神経障害性疼痛薬物療法ガイドラインの第一選択薬に位置づけられているプレガバリンについて、その開発から、作用機序、使用上の注意について解説された。

村岡渡先生（川崎市立井田病院歯科口腔外科）は「**神経障害性疼痛治療薬処方上の注意点**」という題名で、神経障害性疼痛の薬物療法に用いるアミトリプチリン、プレガバリンの処方上の注意点について説明された。

宮地英雄先生（北里大学医学部精神医学）は「**神経損傷患者に対する精神医学的対応**」という演題で、神経損傷患者の身体症状がどの程度精神面に影響しているか、またその身体症状は精神的問題から派生していないかということについて解説された。慢性化した神経障害性疼痛の患者には心理社会的疼痛も併存するので、対応の難しさを痛感した。

最後に佐久間泰司先生（大阪歯科大学歯科麻酔学講座）が「**神経損傷患者に対する法的対応**」というテーマで講演された。神経損傷による後遺症は慢性化するものが多く、対応が悪いと場合によっては紛争化するという身につまされるお話しをされた。



会場は満席で、白熱した討論が行われた

今回のシンポジウムは、自分が所属していない学会の先生のお話を聞くこともでき、一日を通し非常に内容の濃いものであった。私たちは神経障害性疼痛に関連する学会に所属しているので、それに対する知識はあるが、全く知識のない歯科医師も多く存在すると思う。その歯科医師達に神経障害性疼痛を啓発していくことも私たち学会員の使命であると再認識した。

日本口腔顔面痛学会 News Letter へのお問い合わせは

「日本口腔顔面痛学会事務局」まで

〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷株式会社学会事務センター内

TEL: 03-5620-1953, FAX: 03-5620-1960 E-mail: jsop-service@onebridge.co.jp